

## 市民・文化観光・消防委員会行政視察概要

1 視察月日 令和4年7月27日（水）～7月29日（金）

2 視察先及び視察事項

（1）青森県八戸市

八戸市美術館のリニューアルについて

（2）岩手県盛岡市

ア 消防団員募集にかかるPRについて

イ 東日本大震災規模の災害時の初動防災対策について

（3）宮城県仙台市

ア スポーツコミッションせんだいのスポーツ誘致運営施策について

イ 仙台市とスポーツコミッションせんだいの連携について

3 視察委員及び随行

委員長 中島光徳

副委員長 山本たかし

同 望月高德

委員 青木亮祐

同 瀬之間康浩

同 長谷川琢磨

同 田中ゆき

## 視察概要

### 1 視察先

青森県八戸市

### 2 視察月日

7月27日（水）

### 3 対応者

八戸市美術館副館長（挨拶・説明）

議会事務局議事調査課議事調査グループ主査（案内）

### 4 視察内容

八戸市美術館のリニューアルについて

#### ア 美術館のリニューアル

八戸市美術館は、1986年から約30年運営を続けてきたが、元税務署を改修した建物の老朽化や展示物、収蔵機能の不足も鑑みて、リニューアルオープンを目指すことになり、2021年11月3日に、「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～」をコンセプトとして、リニューアルオープンした。

従来の美術館では、「もの」としての美術品を中心とした展示を行ってきたが、本美術館では、アートを紹介した人の活動に焦点を当てた新しい美術館としての運営を行っている。

#### イ 新たなる交流と創造の拠点「はっち」

八戸ポータルミュージアム「はっち」は、地域の資源を大切に思いながら、まちの新しい魅力を創り出すプロジェクトである。

中でも「アートのまちづくり」の推進に力を入れており、地域資源をテーマにアーティストと市民による共同創作作業を通して地域の魅力を再発見し、人材育成やまちの活性化を図る取組を行っている。

#### ウ 「はっち」のアートプロジェクト

アートの力や発想力によって八戸固有の文化や人の魅力など、地域資源を再発見するプロジェクトを展開している。

館内のレジデンス施設を拠点に、滞在アーティストが地域住民と一緒に八戸ならではの創造的活動を行い、地域コミュニティーの活

性化に結び付けている。

#### エ アーティスト・イン・レジデンス・プログラム

「はっち」では、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムという事業を行っている。様々な芸術の分野で活躍する新進・若手のアーティストを主な対象として、まちと関わりながら住民に発見と感動、交流のきっかけを与えられるようなアート活動を支援している。「はっち」を拠点として、市民と密接に関わりながら、八戸でしか生まれ得ない作品創造を実現してもらうことを目指している。

#### オ 美術館施設の特徴

本美術館施設の特徴として、市民や美術館スタッフ・アーティストが互いに学び合うために、大きく2種類の空間が作られている。

「ジャイアントルーム」は、エントランスに入っただけで3層の吹き抜けの巨大な空間が広がっており、外から現在進行中のプロジェクトのプロセスなどが見られる。面積は約834平方メートルで、天井も約17メートルで床にレールがあり、9メートルのカーテンによる間仕切りや家具で区切って自在に空間をつくることもでき、複数のグループが話し合ったり、イベントを行ったり、同時に様々なイベントや活動を行うことができる。

また展示会を行うことができる「ホワイトキューブ」、コレクションを展示する「コレクションラボ」、映像展示が可能な「ブラックキューブ」やワークショップルームなども完備しているのが特徴である。

#### カ 質疑概要

Q スタジオの使用に料金はかかるのか。かかるとするなら料金はどれくらいなのか。

A 料金はいただいている。利用時間帯などにより金額は変わるが、スタジオの場合は、概ね、1時間当たり1000円から2000円程度となる。

Q 美術館の運営という面での採算面について教えてもらいたい。

A 正直に言ってしまえば、美術館単体の運営は赤字である。しかし、この美術館の来客が八戸市を旅行していくといった面での経済効果等、美術館単体で見ることが出来ないが採算はあると考えている。

Q 美術館で収蔵品の特徴としてどういうものを収蔵しているのか。

A 八戸市や近隣町等にゆかりのある物を収蔵することを特徴とし

ている。

Q 美術館の運営はどのような形態をとっているのか。

A 直営形態をとっている。

Q 今まで何人くらいアーティスト・イン・レジデンス・プログラムを卒業していったか。また年間の延べ利用者数はどれくらいの集客を目指しているか。

A まだリニューアル後にプログラム展開して半年程度なので、2、3組である。年間利用者延べ人数についても9万人程度を見込んでいる。

Q 美術館の収入の扱い方や交付金の利用状況について知りたい。

A 主に展覧会の運営に充てている。八戸市への経済効果なども考えて、企画展などを実施していこうと考えている。また、地方創生交付金も利用している。



(会議室にて説明聴取及び質疑)



(八戸市美術館ホワイトキューブ前にて)

## 視察概要

### 1 視察先

岩手県盛岡市

### 2 視察月日

7月28日（木）

### 3 対応者

副議長（挨拶）

総務部危機管理防災課消防対策室室長（説明）

議会事務局議事総務課調査係書記（案内）

### 4 視察内容

#### （1）消防団員募集にかかるPRについて

##### ア 消防団員の人数

市内の消防団員数は2022年4月1日現在で、1079人であり、うち女性消防団員は84人となっている。

##### イ 消防団PRムービーコンテスト

減少する消防団員の確保のために、総務省消防庁主導で、地域住民に、消防団をより身近なものとして知っていただくために、各都道府県及び市町村から作品を募集し、消防団PRムービーコンテストを実施した。募集期間は令和3年10月25日から12月20日で行い、応募された36作品から、最優秀賞と優秀賞を決定し、岩手県盛岡市消防対策室の「未来へ羽ばたけ（Flapping to the future）」が最優秀賞に決定された。

##### ウ 「未来へ羽ばたけ（Flapping to the future）」

本ムービーでは、市消防団における災害活動の支援を行う航空支援隊を発足させたことや、ドローンを活用して火災時の迅速な状況確認や、山間部での要救助者の捜索を行っていることをクローズアップしている。特に、航空支援隊でドローンを操縦して活躍している若者団員を紹介し、先進的な取組をPRすることで消防団員への興味を喚起している。

##### エ 消防団員募集に向けた個別の取組

入団促進方策として、SNSの活用に力を入れている。T w i

i t t e r や I n s t a g r a m、T i k T o k、Y o u T u b e、L I N E、F a c e b o o k など様々なツールを使い、新たな団員募集を目指している。

## (2) 東日本大震災規模の災害時の初動防災対策について

### ア 地域防災リーダーの養成

地域で防災活動を行うために必要な知識を習得するための講習を行っている。自然災害の仕組みを学び、避難所の運営や地域で必要な防災活動を自らの力で展開でき、自主防災組織の結成促進及び活性化を図ることを目的に行っている。養成講座自体は受講費無料、試験無しとしており、講座の講師には、岩手大学の教授、気象庁職員、国土交通省職員、盛岡市職員が担当している。講座の内容も、火山、地震、河川情報、大雨災害、自主防災活動等多岐にわたる。

### イ 地区防災計画

国、都道府県、市町村、住民・事業者等と断層ごとに実行内容が異なっている。市町村レベルの地区防災計画の作成については、災害対策法42条第3項、42条の2等に基づいて、地区防災計画の素案を作成している。

### ウ 地区防災計画の3つの特徴

地区の特性に応じた防災課題が検討されており、住民等が主体的に検討プロセスに参加して理解し、災害時に行動でき、計画内容に基づく防災訓練により、計画の実効性が確保され、災害時に機能する計画が特徴となっている。

## (3) 質疑概要

Q 消防団員の職業で多いのは何か。

A 昔は自営業が多かったが、今は8割がサラリーマンである。

Q 市役所の新採用職員が体験として消防団員として参加しているようだが、原則全員が参加するのか。

A 任意参加となっている。ただし、参加しない場合は所属長に不参加の理由は伝えてもらっている。

Q ドローンを使った救急活動を行っているが、ドローンの使用者の資格取得に係る受講料などは公費で出るのか。

A 基本的には自費で取得してもらっている。

Q 航空支援隊の出動頻度はどうか。

A 災害発生時には必ず出動している。



(盛岡市議会にて説明聴取及び質疑)



(盛岡市議会議場にて)

## 視察概要

### 1 視察先

宮城県仙台市

### 2 視察月日

7月29日（金）

### 3 対応者

議会事務局長 (挨拶)

議会事務局調査課長 (案内)

議会事務局調査課主事 (案内)

文化観光局文化スポーツ部スポーツ振興課長 (説明)

公益財団法人仙台市スポーツ振興事業団スポーツ交流課長 (説明)

スポーツコミッションせんだい事務局事務局員 (説明)

### 4 視察内容

#### (1) スポーツコミッションせんだいのスポーツ誘致・運営施策について

##### ア スポーツコミッション設立の背景

過去に、毎年行われている大規模な全国または国際スポーツイベントは、5月の仙台国際ハーフマラソン大会といった主催事業を含めて実績は5～7件程度であった。

2011年10月に、さいたま市が全国に先駆けて、スポーツコミッションを立ち上げてから、各地でコミッション設立に向けた動きが本格化し、本市でも設立の機運が高まってきた。

平成24年10月、仙台市スポーツ推進計画が策定され、それまでの「する」、「みる」、「ささえる」スポーツに「ひろがる」スポーツが加えられ、その具体的な取組にスポーツコミッションの設立が挙げられたことが直接的な経緯となって設立されることとなった。

##### イ コミッションの概要

設立は平成26年12月13日で、会長に仙台市長、副会長に仙台市スポーツ協会会長、仙台商工会議所会頭、仙台観光国際協会理事長、顧問に宮城県知事を迎え、県市横断でコミッションに取り組んでいる。



事務局体制については、（公財）仙台市スポーツ振興事業団内に事務局を置き、事務局長 1 名、事務局次長 1 名、事務局員 2 名（（公財）仙台市スポーツ振興事業団、仙台市スポーツ振興課から出向）で事業を執行している。

事業費については、（公財）スポーツ振興事業団予算として仙台市からの補助金を受けており、令和 4 年度予算は 899 万 9 千円となっている。

#### ウ コミッションの特徴

他市の一般的なスポーツコミッションの事業内容としては、地域にあるスポーツ資源や観光資源を活用し、各種のスポーツ大会・イベントの誘致に向け、様々な企画・運営の支援を行うことが中心となる。スポーツに関わるイベント・観光を全国、全世界に提案・案内できる組織として、主に地元経済への貢献に重きを置いた活動が一般的となる。

仙台市のコミッションでは、上記に加えて、以下の 4 つの特徴がある。第一に、誘致による経済効果だけでなく、社会的効果も目的としていること。第二に、大学やプロスポーツ球団など地域のスポーツ振興に関わる仕組みがあること。第三に、仙台市だけでなく、周辺 7 自治体と連携した組織であること。第四に、ボランティア団体が構成団体として加入していること。これらが挙げられる。

### (2) 仙台市とスポーツコミッションせんだいの連携について

#### ア 仙台市スポーツ推進計画について

仙台市では、2012年に「仙台市スポーツ推進計画2012～2021」を策定し、「人とまちの元気をはぐくむ『スポーツシティ仙台』」の基本理念のもと、様々な施策に取り組んできた。

本計画期間における、仙台市スポーツ施策は東日本大震災からの復興とともにあり、「震災から復興する仙台を発信すること」などを柱に掲げ、1万人規模の市民参加型大会としてリニューアルした仙台国際ハーフマラソン大会の開催を皮切りに、本誌に本拠地を置くプロスポーツチームの躍進、本誌ゆかりのアスリートのオリンピックでの活躍など、スポーツは市民一人一人の元気や輝き、まちの賑わいを取り戻すための大きな原動力・推進力となってきた。

また、文化スポーツ分野における観光部門との連携強化に向け、

2016年には文化観光局を新設するとともに、2014年に設立したスポーツコミッションせんだいを活用し、大規模スポーツイベントの開催・誘致の取組を進めるなど、交流人口の拡大によるにぎわいあふれるまちづくりを目指すようになった。

#### イ 市との連携状況

原則として、仙台市が策定する仙台市スポーツ推進計画に基づいて事業を行っている。具体的な連携内容については、仙台市スポーツイベント等への興味・関心の喚起やスポーツツーリズムの推進、スポーツを魅せる環境づくり、新たなスポーツ産業等との連携、スポーツボランティアの育成・支援などに取り組んでいる。

#### (3) 質疑概要

Q コミッションが誘致を行うにあたり、例えばゼビオアリーナ等の施設と事前に調整して意向を確認したりしているのか。

A どういう箱が受け入れられるかについては、誘致希望団体、受け入れてもらう施設と情報交換が出来るように事前に各種すり合わせを行っている。また、当コミッションが間に入りリモートなども活用しながら、誘致希望団体と受け入れてもらう施設をつなぐようなこともしている。

Q 横浜の話にはなるが、県と政令市は仲が悪いことも間々あると思う。そんな中で、仙台のコミッションには、宮城県知事も顧問として入り、県市がうまく連携が取れているように見えるが、その秘訣を教えてください。

A 一つのきっかけとして、JR東日本が企画した東北デスティネーションキャンペーンがあると思う。このキャンペーンは、東北6県が一体となって観光コンテンツを磨き上げ、「花」、「自然・絶景」、「酒・食」、「復興」といった様々なテーマについて訴求力を高め、交通広告媒体やデジタルツールを活用して情報発信を行う事業で企業や団体の連携が強まったと思う。東北という地域を考えると、仙台市だけでなく、例えば、松島市だとか気仙沼市だとか仙台市を入口にして近隣市も見に行こうという観光のロードマップもあり、仙台市の観光資源だけでなく、他市との連携も必須となり、宮城県が間に入って市間を結んでもらうといったことが当然必要となったことも背景にあると思う。

Q 楽天イーグルスやベガルダ仙台などプロスポーツチームへの支援はどうか。

- A 仙台市のスポーツチームはまだ歴史の浅いチームが多いと思う。そんな中、楽天のように、徐々に独り立ちしているチームも出てきており、支援の濃淡については考えるタイミングがきていると思う。支援については、普段試合等に来ていない層を呼び込めるような働きかけを進めていきたいと考えている。
- Q 障害者スポーツについての取組はあるのか。
- A 市健康福祉局部門と連携して取り組んでいる。
- Q せんだいアクティブライフスタイル講座のような若い女性をターゲットにした事業があるが、若い女性の指導者は育ちにくいといったことはあるか。自分の周りの話になるが、子供がいるから指導者になれないとか、逆に独身だから指導者にされてしまったといった様々な話を聞くがどうか。
- A 子供がいる方でも指導者になれるサポートが出来るようなプログラムを考えている。



(仙台市議会にて説明聴取及び質疑)



(仙台市議会議場にて)